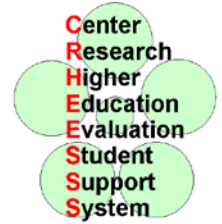


週刊センターニュース No.288



第288号(2009年12月7日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

〇〇〇 第252回共同学習会のご案内 〇〇〇

日時: 12月17日(木) 10時30分~12時 ※開催時間が通常と異なりますのでご注意ください。

会場: 角間キャンパス総合教育1号館2階会議室

テーマ: 「今年度前期共通教育の環境関連科目を振り返る」

企画: 西山宣昭(大学教育開発・支援センター)

報告者: 西山宣昭(大学教育開発・支援センター) ほか授業担当者

趣旨: 現代教養の1つとしてESD(Education for Sustainable development)が注目されているが、本学では大学・社会生活論の開講当初から環境論が設定され、また環境マネジメント小委員会の下の検討会の昨年度の提言に基づき、今年度前期よりいくつかの環境関連の科目が新設、開講されている。

今回、大学・社会生活論、新設科目の授業担当者に授業を振り返っていただき、来年度の授業、今後の本学の環境教育の体系化について議論したい。

〇〇〇 新任博士研究員の自己紹介 〇〇〇

12月1日付けで、金沢大学大学教育開発・支援センター博士研究員に着任しました、尾関美喜と申します。これまで、学部の4年間を名古屋大学教育学部で過ごし、博士課程の5年間に加え、日本学術振興会特別研究員としての7ヶ月間は、名古屋大学大学院教育発達科学研究科に在籍しておりました。

専攻は社会心理学で、博士学位取得までは大学生の部活動・サークル集団を対象として、集団内における迷惑行為に関する研究を行っていました。博士後期課程在籍時は、地域社会の様相が子どもの反社会的行動及び向社会的行動に及ぼす影響を明らかにする研究プロジェクトにも参加しておりました。最近では、集団アイデンティティにおける成員性と誇りの機能的差異に着目した研究、組織における変革志向性に関する研究を行っております。

一連の研究は質問紙調査を中心としており、多変量解析、マルチレベル分析を用いていたことから、縁あってこちらのセンターにてお世話になることになりました。これまで周りに心理学者しかいなかった環境から、多様なバックグラウンドを持つ先生方と仕事をするようになったために、新しい発見の多い日々となりそうですが、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

〇〇〇 PCカンファレンス北海道2009参加報告 〇〇〇

去る11月7日から8日にかけて、PCカンファレンス北海道2009が札幌学院大学にて開催された。

注目すべきは、千歳科学技術大学を中心とした、e-Learning教材の共有ネットワークだ。以前より千歳科学技術大学は学生を中心としたe-Learning教材作成に熱心に取り組んでいることで有名であり、e-Learning教材作成を単位としてカリキュラムに組み込むなどの試みを行っている。そしてまた、そうして作成された教材をデータベース化し、様々な教育現場のニーズに合わせて利用できる体制を構築している。報告を通し、北海道では高大連携の軸としてe-Learning教育の導入が相当進んでいることを実感した。その要因には都市が分散している北海道という土地の特性もあろう。しかし、ボトムアップの形で自然な高大連携ネットワークが構築されているのは注目すべきポイントだ。千歳科学技術大学の小松川氏によれば、コンソーシアムといったような大きな枠組み無しに、個別の連携が

集合した形に現在はないため、今後は北海道全体を視野に入れた大枠作りも考慮に入れていると言う。

さらに、大きな収穫は、青山学院大学における iPhone 導入に関する現状報告が得られたことだ。青山学院大学が社会情報学部の学生全員に iPhone を配布する試みを行ったことは、本年度の大きなニュースとして報じられたが、それに関し、導入の経緯、導入の意図そして導入までの苦労に関する報告がなされた。報告によれば iPhone を導入するねらいは、従来型 ICT 教育を iPhone によって行うことにはないのだという。そうではなく真の狙いは、学生に最新の情報環境に「肌で触」れさせ情報感度を高めることにあるという。これだけいうならば非常に抽象的な話にも思われるのだが、青山学院大学では iPhone 配布開始から 4 年後、卒業生を含む数千人のネットコミュニティができることを前提にしたコミュニティ形成の実証研究を行う準備を進めているという。これが着々と進んでいるとすれば、話は相当壮大になる。

高校生による「プレゼンテーション」をプログラムに組み込んでいたことも、「カンファレンス」のありかたとして注目すべき試みといえよう。様々な「学会」において、「学会」自体のあり方が論議されている。「PC カンファレンス」はももとの理念の中に幅広い参加者層の「参加しやすさ」ことをかかげており、今回の試みもそれに則ったものといえる。情報交換の「場」をどのようなものとして設定するかは、先述した高大連携という視点においても重要な示唆を与えられよう。

最後に、個別の発表における試みを挙げる。まず、(株)VERSION2 の大西昭夫氏による「Glexa による英語オンライン授業の活用事例」がある。この試みのポイントは、「動画素材をいかに緊張感を持って視聴させるか」のシステムとして大変優れているというところだ。Glexa というシステムのプラグインとして用意されている「GlexaMotion」では、動画の途中に任意に選択問題を挿入できるシステムが実装されている。つまり、動画再生の途中に突然カウントダウン形式の質問が出現するのだ。視聴者は、いつ質問が現れるかわからないため、緊張感を持って動画を見なければならなくなる。動画配信は、往々にして「ただ流すだけ」という状態になりがちであるが、それを回避する非常に有効な方法の一つであると感じた。

次に注目できる試みに、千歳科学技術大学の池田悠樹氏による「学生の質保証のための知識を用いた学習カルテシステム」があげられよう。本システムは、学生の履修成績を利用し、「確かに習得している分野」「不足している分野」が色分けされ関係性が線で繋がれるシステムとなっている。これによって学生は、今後採るべき科目がわかるとともに、ある科目が自身にとって難易度が高いのか低いのか、また、科目間がどのように連携しているのかを理解することができる。発表者の意図としては、今後卒業時のアウトカムを保証するためのシステムとして提案していきたいということだ。

大会全体を通し、新たな技術の開発、その技術の普及、技術の共有、と、ICT 教育をめぐる様々な層が重なり合うカンファレンスであったといえよう。(文責 FD・ICT 教育推進室 竹本 寛秋)

○○○ 平成 21 年度大学コンソーシアム石川 S D 研修会開催のご案内 ○○○

テーマ：地域に貢献できる大学づくりと活力ある職員育成

日時：平成 21 年 12 月 19 日 (土) 14:00~17:30

会場：石川県立生涯学習センター 2 階 22 号室 (金沢市広坂 2 丁目 1-1)

主催：大学コンソーシアム石川 共催：大学教育開発・支援センター、大学行政管理学会中部・北陸地区研究会

プログラム：「山形大の S D と大学コンソーシアムやまがたの紹介―(元)若手職員の事例」

樋口浩朗氏 (山形大学大学連携推進室係長)

「大学職員専門職性と S D ―大学行政管理学会における取組みを通して」

福島一政氏 (日本福祉大学学園事業顧問、学校法人東邦学園理事、大学行政管理学会元会長)

パネルディスカッション (樋口浩朗氏、福島一政氏、寺井嘉治氏 (学校法人稲置学園常務理事))

※お申込：①氏名②所属③職名を記入の上、件名「H 2 1 S D 研修会参加申込み」として、メール <shukan2@ucon-i.jp> でお申込み下さい (締め切り 12 月 14 日 (月))